

## 集会アピール（案）

米軍横田基地の機能強化は日米軍奉同盟の強化と軌を一にして進行しています。2015年、安保法制（戦争法）が成立し、「安保3文書」の閣議決定後、敵基地攻撃のための指揮権統合が進んでいます。

2024年3月、自衛隊「統合作戦司令部」が発足し、陸海空自衛隊を平時から有事まで一元的に指揮し、米軍が自衛隊「統合作戦司令部」との連携を専門に扱う部署を新設しました。当面の拠点は、六本木赤坂プレスセンターですが、その上部組織は米軍横田基地の在日米軍司令部です。

近年、米軍横田基地にも多くの戦闘機が飛来し、訓練が行われ、日米の統合作戦司令部の連携強化など、戦争前夜を違わせる軍事同盟の強化は、トランプ大統領の「米国第一主義」と相まって、米軍横田基地は風雲急を告げていると言わざるを得ない状況です。

また、2023年11月に墜落したCV22オスプレイの補充機が飛来し、オスプレイ部隊の受け入れ態勢が着々と進んでおり、部隊の事務所や格納庫、シミュレーションセンターの施設などが準備されています。

そして、オスプレイが日本各地で緊急着陸を繰り返しているのは、2023年の屋久島沖墜落事故の原因が解明されていない中での飛行再開をしてきた弊害と思われます。

私たちは、こうした状況の中、「静かな夜と平和な空を返せ」と訴える「横田基地公害訴訟原告団」を夫接し、オスプレイと飛行訓練に反対する東日本連絡会、そして全国基地問題ネットワークと連帯し、沖縄をはじめとする全国の仲間とともに、日本国内のオスプレイを一日も早く追い出し、米軍基地の整理・縮減・撤去を求め、更なる取り組みを強化するため奮闘します。

2025年10月21日

「CV22オスプレイの横田基地配備を許さない！10.21三多摩集会」参加者一同